

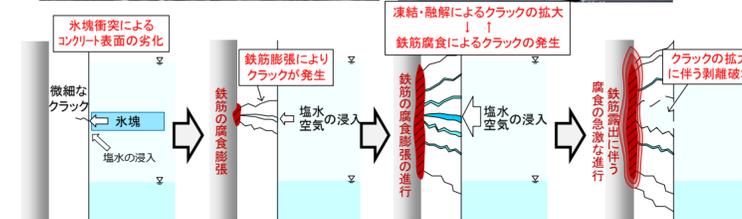
塩水と氷塊に負けない護岸に補修

塩害・凍害を防止する加圧コンクリート矢板の補修工法 耐用年数を約15年から約50年に



- 網走川河口部の特殊堤において、矢板の劣化が顕在化
- 冬期モニタリングの結果、氷塊が矢板に接触損傷し劣化の進行を早めていたことが判明
- 氷塊による耐衝撃性を加味し、矢板表面を「超高強度繊維補強コンクリートパネル」で保護
- 改良による効果として、対策実施箇所の新設年数が約15年から約50年に大幅に増大する見込み

before



設置から15年程度が経過した頃から、矢板の損傷、鉄筋露出等の劣化が顕在化

after



脱塩処理 + 超高強度繊維補強コンクリートパネル取付工法で、氷塊の衝撃に対応

新工法の耐用年数 約50年